

茅葺き・漆塗りの里ではじまる官民連携プロジェクト

奈良県宇陀郡曽爾村



曾爾村の有する地域資源

曾爾高原

奈良・三重県境にある室生赤目青山国定公園である曾爾高原（そにこうげん）は、奈良県宇陀郡曾爾村大字太良路にある高原。かつての茅葺き屋根の材料である茅の供給拠点。春になると山焼きが行われ、秋には「お亀池」という湿地帯を除いて一面がススキに覆われる。

年間50万人のアウトドア客を迎える。俱留尊山（標高1038メートル）と亀山（標高849メートル）の西斜面から麓に広がる高原で、平坦地の標高は約700メートル、面積は約38ヘクタール。



屏風岩公苑

村の大半を占める山地は室生火山群に属し、西側の岩肌もあらわな屏風岩、鎧岳、兜岳などの珍しい柱状節理の美景は国の天然記念物に指定されています。



曾爾村の有する地域資源

《歴史》

漆塗り発祥の地

「以呂波字類抄」引くところの「本朝事始」に、倭武皇子が宇陀の阿貴山に猟に行ったとき、木の枝を切ると黒く染まり、その汁を集めて持ち物に塗ると美しく染まったので、この曾爾の郷に漆部造をおいた。これが日本のウルシ塗りの始まりといわれる。この漆部の人々が曾爾川沿い一帯に住み、漆塗りの原汁を採集して、朝廷（奈良—平安朝）に奉ったとされている。



漆の苗の植樹

曾爾高原温泉「お亀の湯」

曾爾高原の麓にあり、泉質はナトリウム—炭酸水素塩温泉で重曹成分が多く含まれる「美人の湯」。温泉シールラー「ゆらん」の泉質ランキングで中日本1位。露天風呂からは屏風岩、兜岳、鎧岳が大パノラマで眺望できる。



曾爾の獅子舞



曾爾村の中心部にある門僕神社（かどふさじんじゃ）で毎年10月に奉納される「曾爾の獅子舞」は、約300年の歴史があり豪快な舞いや所作の美しさから、県の無形民俗文化財に指定されている。

「漆」「茅葺き」の関連技術がユネスコ無形文化遺産登録決定

国連教育科学文化機関（ユネスコ）で、2020年12月、日本が無形文化遺産に提案していた**伝統建築工匠の技 木造建築を受け継ぐための伝統技術**（全17技術）の登録が決定しました。

建造物修理	建造物木工
檜皮葺（ひわだぶき）、柿葺（こけらぶき）	茅葺（かやぶき） ②
檜皮採取	屋根板製作
茅採取 ①	建造物装飾
建造物彩色	建造物漆塗 ④
屋根瓦葺（本瓦葺）	左官（日本壁）
建具製作	畳製作
装潢（そうこう）修理技術	日本産漆生産・精製 ③
縁付金箔製造	



①茅採取



②茅葺き



③日本産漆生産・精製



④建造物漆塗

→ 漆や茅葺きの営みを次代に向けて再生する曾爾村の取り組みに弾み

曾爾村 茅葺き・漆塗りの里ではじまる官民連携プロジェクト

背景

絶景に息をのむ茅場「曾爾高原」や漆文化発祥とされる土地柄を有する村だが、人口減少が進む中、固有の伝統文化や農林業が衰退しつつある。



現状の課題

- ・ 曾爾高原はススキ（茅）の植生が悪化しているが、改善のための知見・ノウハウ・人材が不足
- ・ 漆の植栽・育林を進めていくためのノウハウ・人材が不足



事業の目的

「曾爾高原復活プロジェクト」
「山と漆プロジェクト」

➡ 茅と漆のある原風景を村に取り戻す
日本の伝統文化を守り継ぐ・担い手を育てる

これまでの取組

- ・ 曾爾高原の伝統行事の維持、植生復活のための試験実施
- ・ 漆の森の再生に向けた植樹・育林・関係人口の形成
- ・ 知恵・ノウハウを蓄積し、持続可能な仕組みを構築模索



曾爾村 茅葺き・漆塗りの里ではじまる官民連携プロジェクト

事業
内容

「曾爾高原復活プロジェクト」
「山と漆プロジェクト」

➡ 日本の原風景と技を次世代につなぐ
森づくり・場づくり・人づくり



得られる
成果等

《成果・目標》

- 漆・茅の供給産地の形成
- 曾爾村の漆で奈良県の国宝・重要文化財を修復、茅で重要建造物の屋根を修復するサイクルを構築
- 漆・茅葺きに関する職人・社会起業人材育成拠点の形成

- ➡
- ・村に共感する関係人口コミュニティの創出
 - ・健康で持続可能な暮らしをデザインする村へ

《企業に求めるもの》

- ・森づくりのノウハウ（植生・育林・保全）
- ・価値づけのノウハウ（利活用研究・商品開発・発信）
- ・関係者のプラットフォーム化

《企業のメリット》

- ・SDGs事業の実証プロジェクトを共創できること、実践による人材育成
- ・自社のノウハウ活用による企業価値の向上（認知度向上・データ集積）



曽爾村が目指す 持続可能な暮らしと地域づくり＋地域を担う人づくり

コロナ後の一步先を見据え、伝統的な生活文化を次世代に継承する、持続可能な地域づくり・人づくりをともに進めていただける企業とのパートナーシップ・協業を希望しています。



①山と漆プロジェクト

※日本国内で使われている漆の98%は中国産

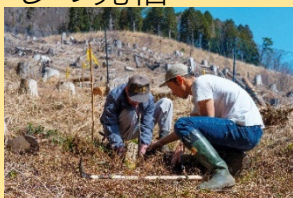
※文化庁が、国宝・重要文化財の修復には極力国産漆を使用する旨の通知を发出

漆の森の再生に向けた植樹・育林、関係人口との協働



奈良県の国宝・重要文化財の修復に使う漆を曽爾村から供給

漆とともにある持続可能な暮らしの発信



漆の苗の植樹イベント



漆の名札づくりWS

②曽爾高原復活プロジェクト

※高齢化で茅の保全・活用に黄信号
村内に残る茅葺き民家はわずか1軒のみ

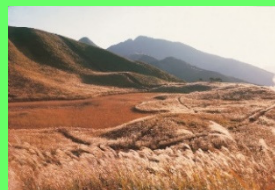
ススキの植生改善に向けた実証実験・普及、関係人口との協働



伊勢神宮など歴史的建造物への供給復活

村内の茅葺き民家の復活

茅葺きとともにある持続可能な暮らしの発信



曽爾高原のススキ



曽爾村の茅葺き民家

③人材育成プログラム

- ・ 曽爾村の地域資源を活用した、持続可能な暮らしの技（生きる力）を兼ね備えた人材の育成プラットフォームを構築する。
- ・ 漆職人（木地師、漆塗り師、漆かき職人）、茅葺き職人・デザイナーのほか、農村部の課題解決を地域住民と協働で図るソーシャルベンチャー（社会起業家）を育成する。



曽爾村にある国立曽爾青少年自然の家との協働により、子ども(曽爾村内及び村外)への教育プログラムとしても展開

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立曽爾青少年自然の家